

## ワラル事件 32 年目追悼式

片山大使挨拶【2023年7月12日（水）】

おはようございます。

日本国大使館を代表し、一言挨拶申し上げます。先ず、32年前、当地で尊い命を失われた宮川清忠氏、中西浩氏及び金良清文氏の3名の犠牲者に対し、改めて衷心より深い哀悼の意を表します。また、御遺族に対して改めて心よりお悔やみ申し上げます。仏教では故人が亡くなられて32年後に行われる法要は33回忌と言われ特別な年でもあります。

当時、ペルーにおける野菜の安定供給が難しかった状況下に、彼等3人の日本人専門家は、現地スタッフとのチームワークをとりながら、献身的に技術協力を行っておりました。

志半ばにして亡くなられた彼等の思いを考えると、テロリストの残忍な行為への強い憤りと深い悲しみを禁じ得ません。

3人の技術指導と遺志を受けたペルー人スタッフは、その後のペルー農業の進展に大きく貢献してきました。当時と比べ、ペルー農業の生産能力は大きく向上し、現在ではアスパラガス、アボカド、マンゴー等の多様な農産品が安定的に生産され、さらに、世界各国に輸出されております。

今年の3月には、ペルー産ぶどう生果実の日本向け輸出が解禁となり、遠く離れた日本にも、様々なペルー産の農産品が届いております。ペルー農業発展の影には、彼等3人の専門家やペルー関係者の活動の積み重ねがあったことを我々は決して忘れてはなりません。

最後になりましたが、本追悼式の開催に御尽力いただきました関係者に感謝とと

もに、改めて犠牲者を心より追悼し、このような残虐な事件が二度と起こらないことを強く願い、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。